

津山市の環境報告書

平成28年度版

(平成27年度実績報告・平成28年度行動計画)



津 山 市

はじめに

津山市環境報告書について

本報告書は津山市環境基本条例第10条の規定により、環境基本計画に基づいて、市域における環境の状況、環境の保全等に関する施策の実施状況等について作成したものです。

津山市環境基本計画は平成15年3月に市民との協働により策定されました。その後、平成19年3月には、市町村合併を踏まえて計画の改訂を行いました。

そして平成28年3月に、今後10年間の取り組みを示した「津山市第2次環境基本計画」を策定しています。

前計画から引き継いだ環境将来像「刻(とき)を積み いのちはぐくむ水、土、緑 未来につなぐ にぎわいのまち」の実現には、市民や事業者、市民団体の皆様のご協力が必要です。引き続き、本市の環境行政にご理解とご協力をお願いします。

津山市環境報告書もくじ

第 1 章 津山市の環境の現状

- 1 環境の現状を伝える意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 「ビジョン」ごとの環境の現状・・・・・・・・・・・・1
 - しぜん・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - まち・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - ひと・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - しくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

第 2 章 平成 27 年度の環境基本計画の実施状況とその評価

- 1 年次報告の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 2 「ビジョン」ごとのプロジェクトの実施状況と評価・・・・・・・・10
 - 自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
 - まち・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
 - ひと・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
 - 循環・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

第 3 章 平成 28 年度の行動計画

- 1 年次行動計画の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 2 「ビジョン」ごとの年次行動計画・・・・・・・・・・・・16

第1章 津山市の環境の現状

1 環境の現状を伝える意義

この章の目的は、津山市の環境の現状を調査分析することで、市が抱えている環境問題を認識し、その問題を解決すべき課題として抽出することにあります。課題を抽出し、課題の解決に向けた目的目標の設定をすることで、達成するための計画の立案(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、見直し(Action)といった一連のプロセスの繰り返し(PDCAサイクル)により、環境の改善が図られることとなります。

この章では、環境基本計画の「ビジョン」の区分毎に環境の現状を明らかにし、問題の分析をしています。ビジョンは、第2次環境基本計画策定時に見直しを行い、津山市の環境を【ひと】、【しぜん】、【まち】及び【しくみ】の分野別に示したものです。

2 「ビジョン」ごとの環境の現状 しぜん

主な山岳・・・

中国山地の南面傾斜地として、1,000～1,200mの山々が、緑豊かな地域を形成しています。また、津山市北部は氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されています。

山岳名	標高	位置
天狗岩	1196.6	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界
滝山	1196.5	大吉・勝田郡奈義町境界
三十人ヶ山	1171.7	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界
角ヶ山	1152.7	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界
広戸仙	1115.0	大吉・奥津川
大ヶ山	989.8	加茂町倉見・加茂町知和・阿波
桜尾山	956.3	加茂町物見・鳥取県境界
公郷仙	862.0	加茂町公郷・加茂町下津川
大釈山	848.2	加茂町公郷・加茂町知和・加茂町下津川
天狗寺山	831.8	大篠・加茂町行重・加茂町成安
山形仙	791.1	新野山形・奥津川・西上
甲山	777.0	大吉
矢筈山	756.4	加茂町山下・加茂町知和
釈山	753.1	加茂町物見
入道山	752.3	上横野・苫田郡鏡野町境界
鳥山	701.0	大篠・吉見・綾部
寺山	681.6	加茂町青柳・加茂町戸賀・加茂町黒木
黒沢山	668.0	東田辺
矢倉山	659.5	宮部上・真庭市・苫田郡鏡野町境界

資料 岡山県統計年報

主な河川・・・

津山市中心部を一級河川吉井川が貫流し、これに加茂川や広戸川、皿川、久米川などの支流が交わり、水資源に恵まれています。

河川名	上流端	下流端	総延長 (m)	
吉井川	苫田郡鏡野町	岡山市	133,274	
支川	広戸川	津山市	18,045	
	加茂川	津山市	38,455	
	倉見川	津山市	17,000	
	皿川	久米郡美咲町	津山市	14,243
	久米川	津山市	津山市	12,368

資料 岡山県統計年報

空気・・・

自然にめぐまれた津山の空気は、県南の都市部に比べ、きれいな質を保っています。

岡山県による測定結果を見ても「望ましい環境」の基準を示す環境基準に照らし合わせても、適合しない日はほとんどない状況です。

年度	二酸化硫黄			二酸化窒素			浮遊粒子状物質		
	年平均値 (ppm)	1時間値が 0.1ppmを 超えた時間 数 (時間)	日平均値が 0.04ppmを 超えた日数 (日)	年平均値 (ppm)	1時間値が 0.2ppmを 超えた時間 数 (時間)	日平均値が 0.06ppmを 超えた日数 (日)	年平均値 (mg/m ³)	1時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間 数 (時間)	日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日数 (日)
平成22年	0	0	0	0.007	0	0	0.025	3	1
平成23年	0.002	0	0	0.006	0	0	0.024	0	1
平成24年	0.001	0	0	0.006	0	0	0.025	0	0
平成25年	0.001	0	0	0.006	0	0	0.025	0	0
平成26年	0.001	0	0	0.005	0	0	0.018	0	0

資料 岡山県環境保健センター

環境基準達成状況

対象物質	基準	達成状況
二酸化硫黄 (SO ₂)	日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	基準値を満たしている。
二酸化窒素 (NO ₂)	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。	基準値を満たしている。
浮遊粒子状物質 (SPM)	1時間値の1日平均値が、0.10mg/m ³ 以下で、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	数件の不適合が検出される年もあるが、黄砂等突発的な要因と推察される。

河川水質・・・

河川の水質は、下水道や合併処理浄化槽などの汚水処理施設が整備されるにつれて改善しています。市では、河川13箇所(うち環境基準類型指定水域9箇所)、中小河川50箇所の水質を検査しています。

環境基準達成状況

対象	測定項目		水質検査 回数	環境基準 達成状況
		環境基準値		
河川水質検査 (13箇所、うち環境基準類型指定A4箇所、類型指定B5箇所)	水素イオン濃度 (pH)	類型A	年2回	100%
		類型B		100%
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	類型A		100%
		類型B		100%
	浮遊物質 (SS)	類型A		100%
		類型B		100%
	溶存酸素量 (DO)	類型A		100%
		類型B		100%
	大腸菌群数	類型A		0%
		類型B		40.0%
水温、全窒素、全りん、溶解性マンガ、溶解性鉄、全クロム、銅、鉛、亜鉛			年1回	
	pH(水温)、BOD、DO		年2回	

MPN(most probable number) :

最確数。大腸菌群の数値を確率的に算出する方法を用いて推定した数に用いる単位。

資料 市環境生活課

地下水・・・

市では、地下水の測定を毎年行いますが、平成27年度の結果は以下のとおりです。

環境基準達成状況

測定項目	測定結果	環境基準値
	綾部市内	
六価クロム	< 0.02	0.05mg / l以下
ふっ素	< 0.08	0.8mg / l以下
トリクロロエチレン	< 0.001	0.03mg / l以下

<・・・定量下限値未満

ダイオキシン類・・・

環境中にあるダイオキシン類

の量を把握するため、岡山県がダイオキシンを測定しています。

平成26年度に行った測定結果によると、環境基準を満たしていました。

環境基準達成状況（平成26年度）

種類	資料採取場所	測定値	環境基準	単位
大気	山下地内	0.017	0.6以下(年間平均値)	pg-TEQ / m ³
河川水質	吉井川嵯峨堰	0.019	1以下(年間平均値)	pg-TEQ / l

資料 岡山県環境白書平成27年版

森林・・・

市面積の約6割が森林に覆われて、そのうち約2/3を人工林が占めています。

岡山県内の市町村で4番目に多い比率となっておりますが、林業従事者の減少などの問題がありますが、計画的な間伐を行う必要があります。

(単位：ha)



資料 固定資産概要調書

国定公園・自然保護地域・・・

津山市は、その大半が森や農地で占められており、吉井川がまちの中心部を流れるなど、自然に恵まれたまちです。

この自然を守るため、次の地区について国・県・市は、それぞれ、公園、自然保護地域として指定しています。

自然公園法、岡山県立自然公園条例、岡山県自然保護条例、津山市環境保全条例に基づき指定。

自然公園法に基づく国定公園

名称	所在地	指定年月
氷ノ山後山那岐山国定公園	阿波、大岩、大吉、奥津川、加茂町青柳、 加茂町倉見、加茂町黒木、加茂町知和	昭和44年4月

岡山県立自然公園条例に基づく県立自然公園

名称	所在地	指定年月
湯原奥津県立自然公園	加茂町倉見	昭和45年5月

岡山県自然保護条例に基づく郷土自然保護地域

名称	所在地	面積(ha)	指定年月
矢筈山地域	加茂町知和・加茂町山下	84.7	昭和57年3月
中山神社の社叢 <small>しゃそう</small>	一宮	6.78	平成4年3月

岡山県自然保護条例に基づく郷土記念物

名称	所在地	指定年月
山形八幡神社の森	新野山形	昭和62年3月
物見神社の社叢 <small>しゃそう</small>	加茂町物見	平成13年3月
宝蔵寺の森	加茂町齋野谷	平成16年3月

津山市環境保全条例に基づく自然環境保護地区

名称	所在地	面積(ha)	指定年月
黒沢山地域	東田辺・山方・上横野	613	昭和48年9月

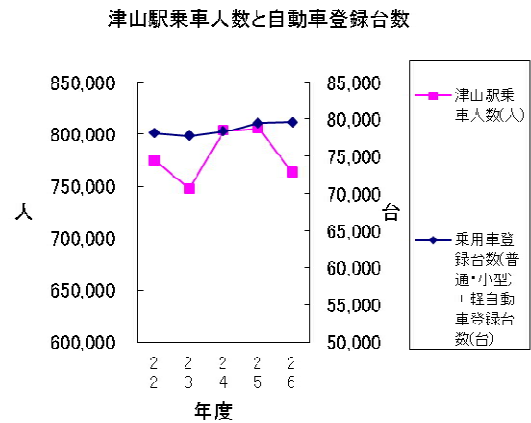
津山市環境保全条例に基づく郷土自然保護地区

名称	所在地	面積(ha)	指定年月
神楽尾山地域	総社・小原・上田邑・一宮	693	昭和48年9月
神南備山地域	一方・井口・大谷・横山・八出・小桁・種	564	昭和48年9月

まち

交通・・・

市では、平成22年3月に「津山市地域公共交通総合連携計画」を策定し、維持継続できる地域公共交通体系づくりを基本方針として、利用者の増加を図るための取り組みを実施するとしています。



資料 西日本旅客鉄道・岡山運輸支局・市税制課

騒音・・・

騒音の発生源は多様ですが、自動車の走行も発生源のひとつです。

市では、毎年、都市計画区域内の道路に面する地域とそれ以外の地域で測定を行っていますが、平成27年度の結果は以下のとおりです。

騒音測定調査結果

環境基準対象区域

種別	測定地点数	時間帯	環境基準達成地点数	達成率
道路に面する地域	4	昼間	3	75%
		夜間	3	75%
上記以外の地域	4	昼間	4	100%
		夜間	4	100%

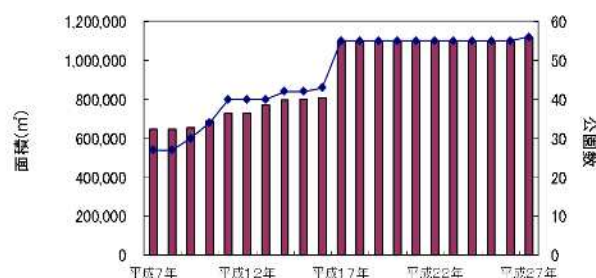
このほか12箇所において、騒音測定を実施している。

資料 市環境生活課

公園・・・

津山市は、古くからの歴史を有するまちであり、市内の緑地にも歴史的な特色が感じられます。平成12年3月に制定された『緑の基本計画』に基づき、津山市の歴史的風土や良好な自然環境等の地域の特徴をいかした整備が進んでいます。

都市公園の状況



平成16年度までは津山地域の都市公園数・面積、
平成17年度以降は全域の都市公園数・面積。

資料 市公園緑地課

緑地公園の状況

名称	面積 (ha)	施設
グリーンヒルズ 津山	25	駐車場 800 台、リージョンセンター (1,668 m ²)、レストラン (407 m ²)、フラワーガーデン、ウォーターガーデン、野外ステージ、トリムの森のわんぱく城、花時計他

資料 市公園緑地課

その他公園の状況

区分	所在	面積 (m ²)	施設
兼田児童公園	川崎	3,300	広場、遊具、修景施設
塔中コミュニティ公園	加茂町塔中	2,493	〃
人咲く・水と森の郷 川の学校公園	加茂町公郷	9,000	〃
竹之下レインボー園地	阿波	1,349	広場、修景施設
釜森公園	阿波	2,806	広場、ゲートボール場、修景施設
一ノ渡公園	阿波	814	広場、修景施設
ホテルの里公園	宮部上	15,687	広場、簡易炊事棟、キャンプ場
花と溪流の里公園	八社	5,355	修景施設、遊歩道
油木上公園	油木上	4,074	広場、修景施設
計	9ヶ所	44,878	

資料 市公園緑地課

ひと

人口・・・

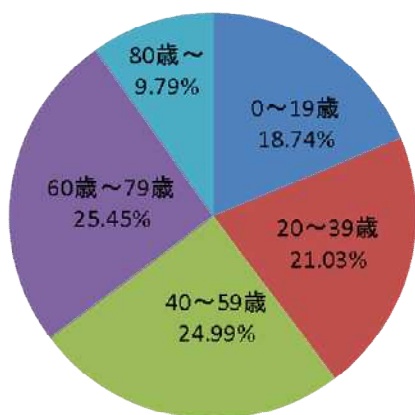
平成17年、平成22年の国勢調査によると、人口は微減傾向にあり、少子高齢化が進んでいます。

人口の状況

	合計	男	女
平成17年	110,569	52,418	58,151
平成22年	106,788	50,787	56,001

資料 国勢調査

年齢別総人口



0～19歳	19,481
20～39歳	21,855
40～59歳	25,972
60～79歳	26,452
80歳～	10,179
合計	103,939

平成28年1月1日現在。

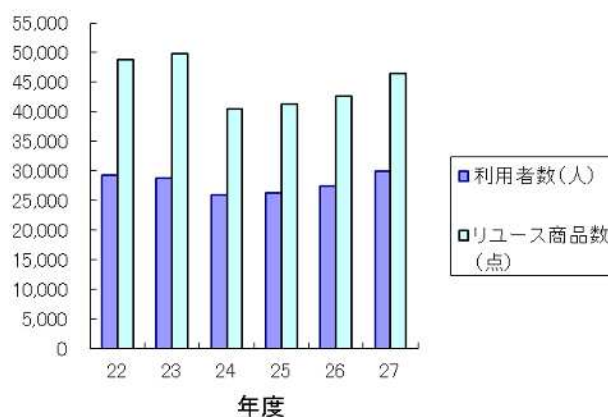
資料 市市民課

市民の環境活動への関心・・・

市民の環境活動への関心の度合いを数値的に把握することは難しいことですが、リユースプラザ津山「くるくる」の運営状況がそれを示すひとつの指標と考えられます。

27年度は利用者数、リユース商品数ともに微増となりましたが、平成28年度からは津山圏域クリーンセンターのリサイクルプラザに「くるくる」の機能が移転されました。

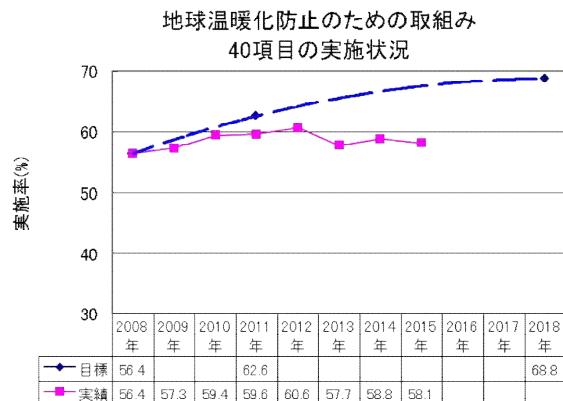
リユースプラザ「くるくる」の利用状況



資料 市環境事業所

市民の地球温暖化対策の取組み・・・

市では、「津山市地球温暖化対策地域推進計画」の取組み状況を図るため、毎年市民アンケートを行っています。そのアンケート結果によると、地球温暖化対策となる取組み40項目の実施率は前年調査と同程度ですが、目標の数値には届いていません。家庭でできる取組みの普及啓発が必要なことが推察されます。



資料 市低炭素都市推進室

事業者の環境活動への関心・・・

事業者の環境活動への関心の度合いを測る「ものさし」のひとつとして、環境マネジメントシステムの取得状況が挙げられます。

それによると、多くの業種が市内で認証を取得し、環境配慮に対する関心が高まっていることが推察されます。

ISO14001認証取得事業所の主な業種

金属加工	情報技術開発
繊維、繊維製品製造	医療、在宅介護支援、訪問介護、保健サービス
電子・電気部品製造	電子機械器具製造
紙製品製造販売	コンビニエンスストア
再生資源処理加工	ショッピングセンター
環境緑化製品製造販売	スーパーマーケット
高発泡プラスチック製品製造	

津山市内のISO14001認証取得事業所の主な業種を掲載

津山市では、平成24年度より独自の環境マネジメントシステムを本稼働させ、市役所事務事業から発生する温室効果ガスの削減等、環境に配慮した事務所を目指した取組みを進めています。

津山市環境方針

1 基本理念

津山市は、中国山地の裾野に位置する、清潤と豊かな自然に囲まれた歴史と文化の薫るまちです。しかし、近年、私たちの社会経済活動の拡大に伴うエネルギーや資源の大量消費が要因となって、地球温暖化、オゾン層破壊といった地球規模の環境破壊や、里山里地など身近な自然の荒廃、廃棄物の増加等の様々な環境問題が発生しており、その対策は、急務となっています。

津山市では、このような様々な課題を解決し、次世代により良い環境を継承していくために、環境マネジメントシステムの運用を通じて、市の事務事業における環境への配慮に努めるとともに、職員一人ひとりが共通の認識のもと、環境負荷の低減に向けて継続的な改善に取り組みしていきます。

そして、市民、事業者及び市民団体、行政がともに行い、津山市環境基本計画の目標である環境将来像「緑を積み 水のちばくぐり水、土、緑 未来につなぐ にぎわいのまち」の実現を目指します。

2 基本方針

(1) 一事業者として環境にやさしい事務事業を推進し、特に以下の項目を重点的に取り組みます。

- ① 省エネルギー、省資源、廃棄物の削減及びリユース、リサイクル、グリーン購入を推進します。
- ② 環境に配慮した公共工事を推進します。
- ③ 環境保全や環境改善に関する施策を推進します。

(2) 事務事業による環境への負荷の低減に努め、汚染の予防と改善に取り組みます。

(3) 環境関連法規や条例、規則その他の津山市が合意する事項を遵守します。

(4) 環境目的、目標を定め、見直しを行いながら、環境マネジメントシステムの運用及び継続的改善に努めます。

(5) 環境方針は、市の職員、市民及び事業者等に対して周知するとともに、市のホームページ等を通じて広く一般に公表します。

平成28年4月1日

津山市長 宮地昭範

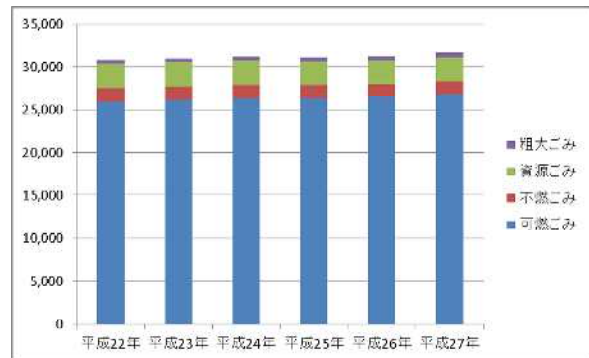
資料 市低炭素都市推進室

しくみ ごみ・・・

平成28年3月に津山市・鏡野町・勝央町・奈義町・美咲町の1市4町で組織する津山圏域資源循環施設組合が、建設を進めていた「津山圏域クリーンセンター」が竣工しました。

平成26年度における市民1人1日あたりのごみ量（津山市）は、898グラムとなっており、全国や岡山県の数値より少なくなっています。

種類別ごみ量（t）



「資源ごみ」とは、プラスチック製容器包装・缶・ビン・ペットボトルなどの量です。

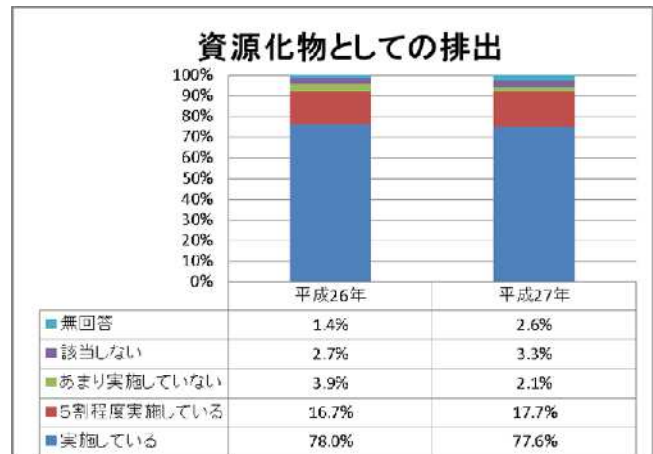
資料 市環境事業所

資源化物としての排出・・・

市では、町内の資源回収場所の他、廃品回収や青空リサイクルプラザ等で、資源化物の回収を進めています。

市民アンケートの結果によると、『資源化できるものは資源化物として排出しているか?』の問いに、77%以上の方が実施していると回答し、実践していることがうかがえます。

資源化物としての排出



資料 市低炭素都市推進室

第2章 平成27年度の環境基本計画の実施状況とその評価

1 年次報告の意義

この章では、平成27年度の環境施策の実施状況だけでなく、その成果や課題についても明らかにしています。これは、次年度以降の施策の継続的な改善を手助けするためのものです。

また、今回の報告では、行政の施策だけでなく、市民や事業者の環境活動についても同じ形式で報告しております。したがって、各主体の実施状況と関連を把握することができます。

2 「ビジョン」ごとのプロジェクトの実施状況と評価

ここでは、「ビジョン」ごとにプロジェクトの平成27年度目標・実施状況・目標達成状況・課題等を記載しています。

目標達成の評価	マーク	判定内容
		目標以上の成果を挙げている
		目標を概ね達成している
		目標達成に向け施策・事業が進んでいる
	x	目標達成に向けた取組みが不十分

自然

きれいな空と大地を守るまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
農薬や薬品の適正使用及び処理の啓発	協働	広報回数：10回	JAつやまと市が連携して、農薬の適正使用について農業事業者へ啓発するとともに、有線・無線放送及びチラシの配布による啓発を実施した。 広報回数：10回		
		農薬の回収回数：1回	JAつやまによる期限切れ廃棄農薬の回収を1月に実施した。 農薬の回収回数：1回		
大気質の測定 / 光化学オキシダント	市・県	環境基準の達成	岡山県環境保健センター大気測定局からの測定データを活用し、光化学オキシダントの測定を行った。		
大気質の測定 / PM2.5	市・県	環境基準の達成	岡山県環境保健センター大気測定局からの測定データを活用し、PM2.5の測定を行った。チラシ配布による啓発も行っている。		

川面に吹く風の心地よいまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
生活排水による水質汚濁の防止	市	下水道普及率：36%	公共下水道整備事業を行い、平成28年3月現在で、普及率36.2%を達成した。		計画に沿った効率的な整備が必要。
		合併処理浄化槽の設置：300基	下水道等認可区域外への合併浄化槽の設置促進を行った。 合併浄化槽設置基数：234基		税制度改訂時期の見極め。景気の動向調査。

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目標達成	課題等
河川清掃の実施	協 働	河川清掃 参加人数： 2300人	市内を流れる吉井川・宮川・蘭田川の河川清掃を、流域町内会各世帯に呼びかけ、6月7日に「第43回河川清掃」を実施した。事業者・行政等からのボランティアも含め2,100名が河川清掃活動に参加した。		
自然体験プロジェクト「水の学校」	協 働	参加人数： 50人	前日の降雨増水のため、中止とした。 参加予定者数：29人		河川での環境学習のため、雨天等で中止となる。
公共下水道の啓発	市	下水道教室 参加親子数： 20組	大阪市内にある下水道科学館にて講習及び施設見学を実施した。 また、下水道について広報誌、ポスターによる啓蒙も行っている。 参加親子数：20組		定員以上に参加希望者があり、盛況である。
		浄化センター見学人数： 150人	随時依頼により施設見学を受け付けている。 見学人数：105人		近年、見学者が減少傾向にある。
公共水域の水質測定及び公表	市	河川水質の環境基準の達成	主要河川、市内中小河川50地点及び中核工業団地周辺を調査し、おおむね良好な状況を確認した。		

心のふるさと里山里地の豊かなまち・・・

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目標達成	課題等
植林地の管理	市・県	間伐面積： 630ha 森林整備面積： 1,000ha	民有林における間伐を推進した。 間伐面積：479.8ha 森林整備地域活動支援事業 森林整備面積：440ha	×	
市民農園の継続運営	協 働	事業の実施 発生した残余区画の利用	一斉清掃、秋の収穫祭、餅つきなどを開催した。 利用者37名 残区画0 広報つやまなどを活用し、残区画が出れば随時募集している。		
自然体験プロジェクト「森の学校」	協 働	参加人数： 各30人	久米山をフィールドとして、11月14日、2月13日に事業を実施した。 イベント参加者総数：77名（2回）		メニューによって、参加者数に偏りがある。



まち

未来を拓く地産地消のまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
学校給食への地場産食材の導入促進	市	年間使用食品数(%) 40%	前年度の34.7%よりわずかに増加したが、地場産物は野菜が中心のため天候の影響を受けやすく目標値達成に至っていない。 実施率：36.4%		使用する量・種類を考慮し使用回数を増やすなど、献立の工夫が必要。また、関係者と連携し、使用割合の拡大に努める。

安全安心で活気があふれる楽しいまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
快適な音や匂いのある環境の整備	市	騒音についての環境基準の達成	11月に主要道路沿いと住宅地等の騒音測定を実施し、基準値を達成した。		

環境と歩行者を優先するまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
公共交通の整備及び普及活動	市	乗車人数の増加	津山市地域公共交通会議の開催。地元住民の要望によるバス停異動や、利便性向上実証実験の実施等を行った。		ごんごバス等については、増加傾向だが、全体としての公共交通利用者は減少している。



ひと

人や情報が交流するまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
市民参画、参加による環境基本計画の推進	協働	事業の実施	環境基本計画推進組織であるエコネットワーク津山の運営委員会に、市がオブザーバー参加し、運営支援を行った。 運営委員会への参加 12回		会員拡大に向けての対策づくり。
環境基本計画に係る年次行動計画・年次報告書の策定と公表	市	事業の実施	平成27年12月に環境報告書を発行し、年次行動計画・年次報告書を公表した。		

環境意識をみがき上げるまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
環境マネジメントシステムの普及	市	事業の実施	全庁的な取り組みとして、各課(室・局)が目標を自ら設定し、年度の上半期・下半期に報告を受けている。また、平成27年度から、全職員で取組む全体目標及び行動目標を定めている。		
各種環境啓発の推進	協働	事業の実施(廃品回収)	津山市子ども会連合会による廃品回収を行い、子どもたちの分別・リサイクル意識が向上した。		子どもたちの自主性が、より期待される。
		事業の実施(自然環境学習、体験学習)	野外キャンプ、自然教室を実施。自然に触れることで、その大切さを確認し環境意識が向上した。体験学習として、ネイチャーゲーム、エコバック作りなどの体験や天然ガス事業所見学を通して、自然の不思議や仕組み、環境問題を学んだ。		子どもたちの自主性が、より期待される。
	市	環境啓発の実施	親子エコフェスタ2015の運営を支援し、環境意識向上に向けた啓発活動を行った。		イベントでの集客を活用して、効果的な啓発活動を行った。
	事業者	市民への啓蒙活動の実施	(一財)津山市都市整備公社が、親子エコフェスタ2015等のイベントでリサイクル、ごみ分別の仕方について啓発を行った。		イベントでの集客を活用して、効果的な啓発活動を行った。

子どもの時から学び、共に育つまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
地域での環境学習や環境の取組みの推進	協働	事業の実施	テレビ津山で放映した環境番組をDVD化し、市内小学校へ配布。環境学習に使用いただくよう依頼。		専門的に環境学習を行っている団体とのタイアップにより、効果的な環境学習の場の提供が必要。
	市	「子どもエコクラブ」の加入クラブ数の拡大	環境省が主宰する「子どもエコクラブ」の会員拡大を図り、同クラブ全国事務局から環境情報の提供を行った。 エコクラブ登録クラブ：2クラブ		子どもエコクラブの活動内容の充実。

夏28度



循環

ごみを減らし、資源の循環するまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
ごみ減量に関する各種取組みの推進	協働	「ごみゼロ新聞」発行回数：3回	ごみゼロ新聞編集委員会を開催し、「ごみゼロ新聞」を6月・10月・2月に発行。ごみ減量化に関する啓発を行った。 「ごみゼロ新聞」発行回数：3回		市民の意識向上には繰り返し啓発が必要。しかし、それ故に内容に変化がない。市民の方が興味を持つ記事作成に努める。
	市	施設見学受け入れ小学校数：21校	小学校を対象に施設見学を実施した。 施設見学受け入れ小学校数：19校		平成28年度からは新クリーンセンターでの受入となる。
リユースに関する各種取組みの推進	協働	「くるくる」利用者数：30,000人	概ね目標を達成。津山圏域クリーンセンターの本格稼働により平成28年3月6日で閉鎖。 利用者数：29,969人		新しい施設は「くるくる」利用者の大半にとっては距離が遠くなるため、利用促進の啓発が課題となる。
リサイクルに関する各種取組みの推進	市民	町内リサイクルの推進事業実施	回収量はH26より約11%の減少。 常時啓発を行い、推進委員への研修なども実施した。		H28から対象地域に勝北地域、久米地域が加わったことから円滑な実施となるよう注視する。
	市	青空リサイクルプラザの継続実施 回収量：250トン	昨年より約36tの減少であるが、これはITの進展によるペーパーレス化や民間古紙回収BOXの設置、荒天による開催の中止によるものではないかと推察。 回収量：222トン		特に古紙の回収量が減少傾向。他の回収手段と合わせ、古紙・古布をリサイクルするために継続した広報・啓発を行う。
		民間集合住宅の入居者に対するリサイクル活動の啓発	不動産管理事業者の協力を得て、民間集合住宅の入居者に対し、9月と3月に収集カレンダーを配布した。		ごみ減量、リサイクル推進のため、広報・啓発を行う。
		生ごみ処理機補助制度の継続実施 補助件数：電気式生ごみ処理機133台 コンポスト容器195個	電気式生ごみ処理機は予算額いっぱいの補助件数であり、市民の要望が高い。予算の制約から目標が実現不可能な値となっている。 補助件数： 電気式生ごみ処理機55台 コンポスト容器105個	×	生ごみの減量等には、継続的に取り組むことが必要であり、その推進手段の一つである当補助事業も積極的に活用されるような啓発等が必要。また、適切な目標設定が必要。
身近な公共スペースの環境美化活動の推進	協働	市内幹線道路中心に一斉清掃の実施	8月23日に町内会、その他団体の計1,600名が参加し、道路清掃を実施した。 可燃ごみ・不燃ごみ 合計約4.2t		今後とも道路愛護月間の運動として継続していく。



エネルギー自立を目指すまち・・・

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目 標 達 成	課 題 等
省エネルギーの普及啓発 新エネルギーの普及啓発	協 働	普及啓発イベントの実施	6月14日に行われた「親子エコフェスタ2015」での啓発を行った。 イベント参加者数：約1,300人		継続的な普及啓発の実施。
	市	省エネルギー啓発の実施	広報つやま・ホームページなどを通じて、「クールビズ」「ウォームビズ」「うちエコ！」などの省エネルギー啓発を行った。また、間引き照明やエレベーターの利用制限等の取り組みを全庁で実施。		今後も夏季・冬季の節電等を全庁的に推進する。

第3章 平成28年度の行動計画

1 年次行動計画の意義

この章では、第1章で述べた環境将来像の実現に向けて、ビジョンを達成するべく、第2次環境基本計画で定められた指標及び目標値を示しています。この目標値に向けて行動していきます。

また、環境面からのまちづくりに向けた施策の成果を測るために、第5次総合計画策定に向けて調査された「津山市まちづくり調査」の項目から、7つの指標を選び、市民満足度の向上をめざして取り組みます。

【ビジョンの達成状況を表す指標及び目標値】

分野とサブビジョン	指標	実績値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
【ひと】 子どもの時から学び、共に育つまち	市民団体と市が協働で行う、学校、幼稚園、保育園などへの出前講座の件数	6 件	30 件	50 件
	市民団体と市が協働で行う、地域での環境学習講座の件数	3 件	23 件	30 件
環境意識を高めるまち	環境学習リーダー養成講座修了者	3 人	10 人	20 人
【しぜん】 川面に吹く風の心地よいまち	汚水処理人口普及率 総人口のうち、公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽が利用できる人口の比率	68.3 %	74 %	80 %
心のふるさと里山里地の豊かなまち	自然観察会や体験学習の件数	年間4 回	年間8 回	年間8 回
【まち】 緑があふれ歴史を感じるまち	「花いっぱい運動」参加団体数	120 団体	125 団体	130 団体
未来を拓く、地産地消のまち	学校給食への津山産小麦使用量	0 t	16 t	51 t
	学校給食に地場産物食材を使用する割合	46.1 %	47 %	47 %
安全安心で活気あふれる楽しいまち	空き家の除去等改善済み件数	7 件	50 件	100 件
人と環境にやさしいまち	公共交通(バス)利用者数	514 千人	524 千人	535 千人
	ノーマイカーデー参加者によるマイカー通勤距離の削減	4,632 km	4,800 km	5,100 km

【ビジョンの達成状況を表す指標及び目標値】

分野とサブビジョン	指標	実績値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 31 年度)	目標値 (平成 37 年度)
【しくみ】 エネルギーや資源 の地産地消を進め るまち	市民協働発電所の設置数	0 か所	5 か所	6 か所
	住宅用太陽光発電システム の設置支援件数及び発電 出力合計数	630 件 3,069 kW	1,130 件 5,619 kW	1,730 件 8,619 kW
	学校施設更新整備方針に 基づく整備の太陽光発電 施設の整備率	0 %	100 %	100 %
	小水力発電設置数	7 か所	9 か所	10 か所
	間伐材の利用拡大による (発電等)搬出量の増加	17,300 m ³	26,100 m ³	34,700 m ³
省エネルギーを進 めるまち	防犯灯の LED 化率の向上	7 %	14 %	21 %
	津山版カーボン・オフセッ ト商品数	15 品	20 品	25 品
【しくみ】 ごみを減らし、資源 の循環するまち	市民 1 人 1 日当たりの ごみ排出量	899 g	888 g	872 g
	市の出前講座の年間の参 加者数	180 人	228 人	300 人

【ビジョンの達成状況を表す指標及び市民満足度の実績値】

指標項目	市民満足度 (平成 27 年度)
1. 地球温暖化防止のための施策が充実し、市民への意識高揚が図られている	41.7 点
2. 廃棄物の安全な処理と循環型社会の実現が図られている	55.7 点
3. 公害の少ない快適な環境が保たれている	66.3 点
4. 公園が快適に利用でき身近な緑地が保全されている	56.6 点
5. 下水道や合併処理浄化槽の整備が進み、生活環境が向上している	63.0 点
6. 地域資源の利用を促進し、森林資源が有効に循環利用されている	42.5 点
7. 誰もが利用しやすい便利な公共交通網が整備されている	45.7 点

〔注〕市民満足度：「津山市第 5 次総合計画」策定に当たって実施された「津山市まちづくり調査」において調査された。



【第2次計画でのリーディングプロジェクト】

「リーディングプロジェクト(計画を先導する取り組み)」として掲げ、市民、事業者、市民団体及び市が協働して推進していきます。

プロジェクト名		プロジェクトの概要
ひと 分野	環境基本計画推進組織の支援	環境基本計画を推進する要となる推進組織の活性化と人づくりを支援する。特に、「活動に参加する人をいかに増やすか、活動する人づくり」を重要視して、取り組む。
	環境学習推進プロジェクト	環境負荷が低減した循環型社会をめざし、すべての世代で自然環境や地球環境問題等の環境学習を行い、日常生活で環境活動を率先して行う市民をめざす。
しぜん 分野	自然保全プロジェクト	森林が持つ多機能的な役割や河川で育まれる生物の多様性を守るため、計画的な森林の管理を行い、河川の美化や水質改善に取り組むとともに、津山の自然環境に関心が生まれるイベントを開催する。
	地球温暖化対策プロジェクト	日常生活の中で温室効果ガス排出抑制を実行できる市民を育てる。市は地球温暖化対策地域推進計画を改定する。
まち 分野	交通低炭素化プロジェクト	「低炭素都市津山」の実現に向け、公共交通の利用促進や環境に配慮した次世代自動車の積極的な導入等による交通の低炭素化を推進する。
しくみ 分野	津山エネルギー導入プロジェクト	「低炭素都市津山」の実現に向けて、木質バイオマスや小水力、太陽光など様々な再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギーの地産地消をめざすとともに、化石燃料由来のエネルギーからの転換を行うことで、地域からの地球温暖化対策を発信し、あわせて、地域経済の活性化をめざす。
	ごみゼロ大作戦	市民、学生、事業者、学校、市民団体及び津山市が協働して運営する「ごみゼロ推進懇談会」及び「3Rプロジェクト実行委員会」において、ごみの減量について検討し、市は具体的な事業を推進する。

津山市の環境報告書

平成28年度版

平成28年12月発行

発行 津山市環境福祉部低炭素都市推進室

〒708-8501 津山市山北520番地

T E L (0868) 32-2051 (直通)

F A X (0868) 32-2158

e-mail : teitanso@city.tsuyama.lg.jp